

コロナ禍の声を国へ届けます!!

地元福岡のみなさまのインタビュー集1



「稲ニュースかわら版」では、昨年3月の16号から今年9月の38号まで全23号にわたり、新型コロナウイルス関連の情報を継続してお届けしてきました。また、専用窓口では支援金や給付金の申請手続き等のご案内を行い、これまでに延べ1200件以上のご相談に対応してまいりました。幅広く支援が行き渡るよう、現在も全力で取り組んでいます。今特別号では、専用窓口、かわら版をご利用くださった様々な業種のみなさまからの現場の声を紹介します。

稲ニュース
かわら版
16号~38号

継続して新型コロナ
情報をお届け
しています。



「現場の声」目次

- 1 60代男性、飲食店経営 (南区)**
感染防止協力金のご相談
- 2 80代女性、美容室経営 (中央区)**
月次支援金のご相談
- 3 70代男性、衣料品卸売業 (城南区)**
一時支援金のご相談
- 4 80代女性、酒類卸売業 (中央区)**
月次支援金のご相談
- 5 40代男性、鶏肉卸売業 (中央区)**
小規模事業者持続化補助金のご相談

1 60代男性、飲食店経営 (南区)



去年、最初の頃はやっぱり試行錯誤です。初めての経験ですから、模索しながらやっていったという感じですね。まだお客さんの方もそういう緊張感というか紧迫感がなかったものから、ある程度は来ていたいたんです。本格的にコロナが流行り始めてからは、かなり困ったんです。それで、稲富事務所の方に相談の電話をして、自分一人で考えるよりもちょっと心強い味方がついて安心しました。

支援金の申請について言うと実際結構ハードルがあ

りまして、申請方法もそうだし期間がかなり長かったものから、もうかなり困りました。お店の営業の仕方でもその都度で変えましたし、休んだりもしました。テイクアウト自体はやってなかったんですけども、どうしてもお客さんは少なくなるからですね。今はやっていまして、お店のスタッフのみなさんには、とりあえず事情を話して、「時間が短いけどいい?」ということでご了解を受けて来ていただいています。今はもうほとんど国から指示された通りに、時間から時間まで営業をやっています。例えば支援金とか、申請をする時に手続きをインターネットでやらないといけないから、僕らみたいに年齢が高いのはどうしてもアナログ人間で、デジタルにどうしても対応できない。ものすごく困って、それでアドバイスをいただきました。安心しましたね。

2 80代女性、美容室経営 (中央区)



二七歳のときにお店をはじめて、今もう八十でしょ。だからもう早く引退をって、子供たちや知人が言うけどお客さんが来ている以上はね、できないじゃないですか。お客さんと共に歳を取って、だから八十代の方とか七十代の方はかが今だに。昔のお嬢さんたちはやっぱり着物を着るためにアップを綺麗にしてもらう。私たちの頃はアップがほとんどだったから。今はそれを崩した感じ。だから二十代の方も多分なったら来てくださるか。何人かですけどね。だからやめられなくて。私もそんな人たちを置いて家に一人っていうのはね。お客さんとお話しするのは楽しみだから。

今補助金の申請中なんです。息子にはもうやめよって、心が折れて、もう諦めようって何回も言ったんですけど、「諦めちゃいかん、出さだけ出そう」って。回答が来るのはですね、この携帯に「不備あり」って書いてくるんですよ。ただそれだけなんです。私はもうガラケー

しか使えませんが、「ここに」マイページにてご確認ください。って言うってなるわけです。これの繰り返し、繰り返し返します。うんざり。具合が悪くなるから。私の息子が北九州にいるものだからね、それで週に一回は自分のお客さんをするために福岡まで来てくれて。だからそんなんでちょっと出すのが遅れたんですよ。今回お世話になろうと思ったのも、事務所の方がすごく親切なんです。私も最初の頃、不備があって、その不備が何なのか分からないんですよ。それでサポートセンターに予約して行ったら、どこに不備がありますよというのを教えてくださるんですよ。その不備を直して、また再度出してたんです。それでもダメで。司法書士の先生はそこまでしてくださらないんですよ。それでももう出しようがないんですよ。もうやめようかなって。それで息子が「お母さん、稲富事務所にご相談してみたら」ということで、お電話させていただきました。そして気持ち良くなってきて。書類の不備なところをアドバイスしていただいたんですね。今また結果を待っているんですよ。

3 70代男性、衣料品卸売業 (城南区)



私は外商一本で。昔は西新でお店やってたんですけど俗に言う露天商です。衣料品の小売でいえばもう五十年くらいやっています。店頭催事をして三十年ですかね。コロナになってからは、しばらく店に来ないでくれとか、店の方から言われたり、そんなものもありましたよね。以前、たまたま稲富さんの宣伝カーが来られてですね。それでポスターなんかで見てたから、そうだからちょっといい機会やなと思って。それで車を止めたら即反応していただいて。

コロナで売り上げは落ちるし、販売先も行くところも少なくなるし、長引いたらどうなるのかなと思って。だからもう業にもすがらないで。月次売上減少の分です。ね。人から聞いてたのは、何か手続きがものすごくやこしい、煩雑で大変な割にはねられるとか、そういうことを聞いてたもんやから。仲間内でも、集まって顔を合わせたら支援金の話がほとんど。俺はこつやった、私はこつやったという、そんな話ばかりですよ。ある程度書類を取り寄せて書いてはみたものの、途中で面倒くさくなるというか、我々の歳になったら七十から上になつたらなかなか難しいんですよ。実際。スマホでもよ

地元福岡のみなさまの インタビュー集1

つづき

←
うと分かんない。とりあえず、稲富さんに事情を説明して、ちょっとごないしたもんでしょかね。そうしたらすぐ秘書の方から連絡が来て、すぐスピーディーでしたね。

申請の出し方で言えば、もう手続きが煩雑というのに尽きますよね。困ってる人を助けましようという考えは分かります。政府からお金を支援するというのは今までなかったですから。たまたま少し親身になって本当の中小企業の苦しさというのを分かってほしいですね。零細企業の、庶民の立場に立っての施策、政策が一番でしょうね。使いやすくして欲しい。介護保険とか健康保険とか、税金のために働いているみたいなもので、大きいですもんね。コロナも今までニュースなんかよく見てたけど、もう身近な感じになってきたんじゃないですかね。もっと方法があるんじゃないかな。葉なんかでもっとスムーズに出るようになり、治験を早くするようにするとかね。稲富さんにももっと研究していただきたいですね。

4 80代女性、酒類卸売業 (中央区)



これは私たちが二代目、今現在は息子がしておりますので息子で三代目ですね。私が小学生の頃からですから、私が物心ついた時から既に父たちは酒屋をしておりますので。だから七十年くらいは、父の代からすれば経っていると思いますね。私たちがもう五十年ですからね。

新型コロナみたいなのは今までありませんね。ホントびっくりしましたね。そしていつ終わるかも分かりませんが、今も今現在はずっと商売がどうにもならなくて大変困っている時ですね。うちは屋台専門に持っています。酒屋です。もう影響を受けているのではありませんか。ここ何カ月間は一円も商いがあってないというかんじな感じですから。要するに経費は要りますので、今まで蓄えていたのを全部入れ込んでしまっていて、もうそれも限界はありますので、これから先のことを考える、どっぴりしたもんなかと思っただけです。

私が最初パーマ屋さんに行っている時に、そのパーマ屋さんも相談されたみたいで、「稲富さんに掛けたら？」って言うから、慌ててかわら版の青いチラシをもらったんですね。それで先日友人の酒屋さんが来て「稲富さんのことを存知たらあんな掛けたらいい」と言っていて、電話を掛けてくださったんですね。そしたら、あくる日すぐ来てくださったって、わあすごいなあと思いましたがね。こんな状況だから私達も一応諦めてたんです。また息吹き返して本当に助かりましたね。「また分からないことあったらお伺いします」と言ってもいいと思います。

今の世の中強いものが勝ちというのか。私たちは一生懸命頑張って、体で稼いできたというのか、そういう感じだったんですね。政治家さんをテレビを見てても新聞読んでても自分たちのことだけじゃないのというような気が起りますね。今まで何となく自民党さんのところに行っていましたけど、私達も変わらなっちゃダメですね。うん、ダメです。分かりましたよ。稲富さんには頑張っていた方がいいですね。

5 40代男性、鶏肉卸売業 (中央区)



僕が経営を引き継いで八年くらいですね。三代目です。この土地でほぼ六五年か。もう古い店がほとんど無くなっているから。基本的には卸と小売りで、店頭で買いに来るお客さんと、あとは飲食店さんの卸が。大体飲食店さん向けが六割から七割、一般の個人のお客さまが三割か四割、今の売り上げの占める割合ですね。飲食店さんは今ねほとんど閉まって売上も壊滅的。三分の一あるかないか。だからめちゃくちゃ苦しい。

コロナ禍になって、お得意先が閉めるのが一番苦しかったですね。卸先、販売先の飲食店さんが緊急事態で自粛したり休業したりとかするのが一番、なんだかんだ言っても。それが去年四月とかですね、その繰り返しで。緊急事態になって、解除されてまた緊急事態。その度にこんな感じ。うちとしてはやるべきことはほとんど変わらないうです。朝も定時に来て定時に帰って。やることは変わらないんですけど売りがないので。今回の支援金も一応提出はしたんですけども不備だらけというのか、これダメですあれダメです、これが足りません、あれが足りません、山のような資料を書いたのに返ってきて。これじゃあ取りませぬみたいな感じで。書類揃えるだけでも

すごく大変なんですよ。また追加で出せと言われても正直出す時間、書類集めの時間もないです。

だからもう稲富さんに、ちょっとクレームじゃないですけど、こんな使いにくい補助金はないって。要は福岡の二区を地盤にして議員さんに、どういったことになってるんですかって。今本場にどういったコロナで小規模な人はすごく困っているのに、なんでこんな手続きを取らなきゃいけないんですか、追加の資料を出さなきゃいけないんですかっていう、ちょっと感情に任せてしまったんですね。そういうメールを問い合わせしたんですね。そしたら早々に連絡もらったのですごく助かりました。すぐ事務局からも振り込み、着金があったんですけど助かりました。アドバースがもらえなかったら多分、今回は補助金をもらえなかったです、0円。今有事じゃないですか。コロナという未曾有の事態になっているのに手続きは平時の手続きなんです。もう隅から隅まで書類を集めてくださいって。めちゃくちゃ大変。使う気がなくなっちゃった。何のために働いているのか分からない。補助金をもらうために仕事してるんじゃないかと思うくらい、資料を集める作業に時間が掛かる。本当は僕は本業に専念したい。補助事業を使いたがために補助事業をメインにやらないといけない。それで本業がおろそかになる。本末転倒じゃないですか。IT補助金はすごく楽でした。小規模事業者持続化補助金はすごく大変です。もうどっぴりしようもできない。

追加資料を出してくださいって言われたけどもう集める気がなくなりました。ずらっと一覧表が出てきて、全部これ提出してくださいみたいな。心が折れそうだったから。

小規模事業者持続化補助金というのが、まずうちがお金を使って、後で戻ってくるんですよ。僕としては戻ってほしいものと思っただけで補助事業をするわけじゃないです。か。それが戻って来ないなら最初からしないですよ。だってリスクが大きすぎるので。リスクというか投資の金額が大きかった。だからそのお金が戻って来たのがすごく助かりましたね。僕たちのような小規模な会社の経営者から求めるなら、やっぱり経済支援とは言わないけど経済対策ですか。もっと僕も従業員にお給料を上げてあげたいんですよ。正直。給料上げてあげたいけど、お給料上げるためには僕たちの会社、この会社が体力をつけなきゃいけないわけ。事業をすすめていくというんですか、ちゃんと稼げる体制を調べてほしい。そのサポートをしてほしいですね。正直。

もっと希望が持てる日本にしてもらいたいですよ。子どもたちへのびのびと育ってもらいたい。日本って今、閉塞感あるような気がするんですよ。新しいことをやりにくい閉塞感というのは、もっと新しいことをチャレンジする人に、光を当ててあげないでいいですか、やりやすくしてもらいたい。稲富さんに言うならばもっと福岡を誇れるように。結局福岡っていい文化がいっぱいある、歴史にしても人情味にしてもいい、僕は大好きな土地なのでその土地が誇れるような福岡にしたいですね。もっと地域が活性化するように、もっと地域が元気になるような政策を稲富さんには期待しています。もっと福岡が元気になるような、福岡が日本をリードするような底力って言うんですか。

僕も親には散々言われたけど、「きついでんこの仕事をやめろ」って。たぶん小さい商店さんってみんなそんなことを子どもに言ってると思うんですよ。何か僕はそれは違うんじゃないかな。子どもたちが親の背中を見て、「お父さんの仕事を継ぎたいな」って、そしたら両親もじゃあ一緒に頑張ろうって。そういう社会に、それを支える底力が欲しいですね。僕たちが仕組みを直接変えることはできない。もちろん間接的に変えることは可能なんですけど、やっぱり直接的に日本の仕組みを変えられるのは国会議員の方たちだけなので、ぜひ頑張ってもらいたいですね。

厚生労働委員として「コロナ対策」に 今後も全力で取り組んでいきます!



衆議院議員
いなとみ修二

新型コロナウイルス感染症の流行から、早くも一年半が経ちました。全国的な自粛を余儀なくされ、地元福岡のみなさまにおかれましても、今なお多くの方が影響を受けています。コロナ禍の早期収束に向けて、これからも全力で取り組んでいきます!

「稲メール」配信



info@inatomi.jp宛にご連絡ください

公式 LINE



友だち追加

公式ラジオ番組



Apple Podcasts